

○日本の課題をEUの中で発見

日本・EUの国会議員会議に出席しました。フランスのアルザス地方の歴史的な街、ストラスブールにEUの国会にあたるEU議会があります。社会、経済から外交安全保障まで、多彩な論議がなされました。丸一日の会議の缶詰状態から開放され、議論の中味を思い返してみると、日本とEUには何と共通課題の多いことか。

少子高齢化。ヨーロッパでも出生率が減少しつづけていますが、それを逆転する効果的な政策が見出されないままです。「フランスが少し回復したと言われていたが、どうか。」と、問うてみると、「子どもの養育手当や、手厚い社会保障などは、海外からの労働者・移民貧困層に集中して適応され、その部分の人口が増えている。従来フランス人のためには政策は生きていない。」と言うような極論まで飛び出してきました。年金や医療制度の破綻についても、大きな政治課題になっています。

安全保障の分野では、北朝鮮が課題であったはずが、いつの間にか日本の核武装に話題が転換してしまい、苦い思いをしました。「日本の閣僚や有力政治家から日本の核武装の可能性について論議が出ているが、私たちは、とても心配している。」日本が、世界の核軍縮や廃絶に先頭にたって運動を進めている姿は、今のヨーロッパの政治家たちにはまったく見えていない。逆に、自民党の一部の政治家たちの大局を見ない発言によって、北朝鮮ではなく「日本脅威論」がヨーロッパの政治家の中にも大手を振って歩き始めている現状は、とても悔しいと思います。

訪欧前に立ち寄った中国の北京でも、「日本の核武装論議は、対北朝鮮ではなく、私たち中国を意識したものだと考えている。」核を持つことで相手の核を牽制できるとする「核抑止論」は、冷戦時代の産物であるにもかかわらず、中国でも、日本でもいまだに生き続けていることを痛感しました。

○会議が踊る。

壁にぶち当たる教育基本法論議

教育基本法の議論が続いています。いじめや自殺、未履修の問題など教育現場がここに来て大きく揺れています。一方で、教育基本法が改正されれば、こうした問題がどのように解決されるのかということになると、伊吹大臣や安倍総理から説得力のある話がいつか出てこないのです。政府案が安倍さんの言う「理念法」(愛国心とか道徳心を大事にする話)ということもあって、具体的な対応策に結び付かないことがもどかしいのです。現実の問題と国会議論がずれている感じがします。

そのところを克服しようと、民主党は、具体的な法案を作りました。第一に、子どもの問題は、先生が悪い、親が悪い、教育委員会が悪いと皆が責任転嫁をしている。ここは、教育行政全体を通じて、一義的に責任をとるのは、まず市長さん、そして知事だという事をハッキリさせる。教育委員会は責任をとる機関ではなく、外からチェックする役割として整理する。そして、子どもたちが十分な教育を受ける権利、中でも特に財政的に保障をすることについては、最終的に国の責任として明記する。第二に、国家が教育にかかる財政的な投資額を他の先進国で行われているように、GDPの何割以上と目標基準を明確にする。

このような具体的な中味の積み重ね議論を始めなければ、いつまで立っても会議は踊っているだけだと思うのです。国会の外は、危機感を持つ人々であふれています。

○お礼

中川正春政策セミナー(四日市)へのご協力、また多くの皆様のご参加、本当にありがとうございました。